

3. 対策技術

対策技術の考え方

1. 登熟期の高温を避ける

1) 品種

- ① 晩生品種
- ② 高温でも出穂が早まらない品種(感光性、基本栄養生長性)
- ③ 穂温が低い品種(蒸散が活発、穂が止葉の陰になる?)

2) 栽培技術

- ① 移植期の後進
- ② 直播
- ③ 灌漑による水温低下

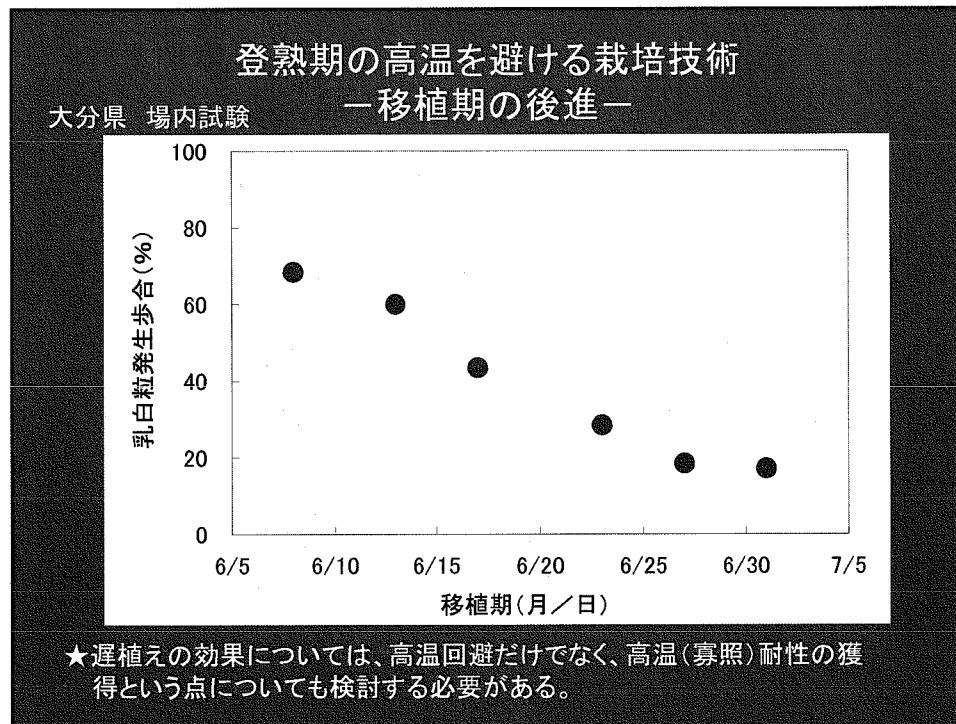
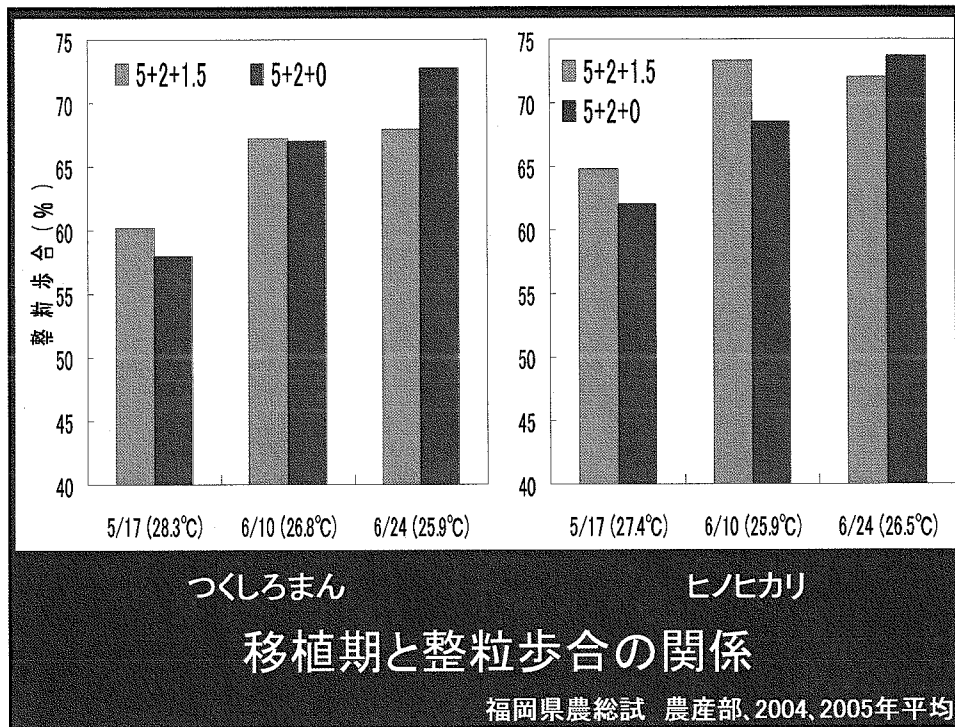
2. 高温に遭遇しても品質低下しない

1) 品種

- ① 籾あたりソース能力が高い
- ② シンク能力が高い

2) 栽培技術(品種で記した①、②を栽培管理で制御)

- ① 施肥管理
- ② 水管理(根の健全化、落水時期の遅延)
- ③ 適期収穫

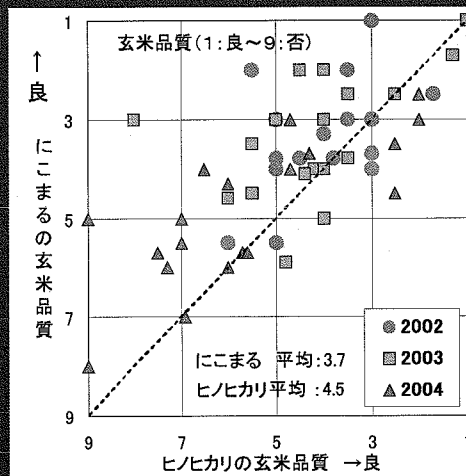


対策技術の考え方

1. 登熟期の高温を避ける
 - 1) 品種
 - ① 晩生品種
 - ② 高温でも出穂が早まらない品種(感光性、基本栄養生長性)
 - ③ 穂温が低い品種(蒸散が活発、穂が止葉の陰になる?)
 - 2) 栽培技術
 - ① 移植期の後進
 - ② 直播
 - ③ 灌漑による水温低下
2. 高温に遭遇しても品質低下しない
 - 1) 品種
 - ① 籾あたりソース能力が高い
 - ② シンク能力が高い
 - 2) 栽培技術(品種で記した①、②を栽培管理で制御)
 - ① 施肥管理
 - ② 水管理(根の健全化、落水時期の遅延)
 - ③ 適期収穫

高温に遭遇しても品質が低下しない品種

こしいぶき(新潟県、2000)、てんたかく(富山県、2003)
 にこまる(九州沖縄農研、2005)



近畿～九州での3カ年の試験で安定して「ヒノヒカリ」に優る。

対策技術の考え方

1. 登熟期の高温を避ける
 - 1) 品種
 - ① 晩生品種
 - ② 高温でも出穂が早まらない品種(感光性、基本栄養生長性)
 - ③ 穂温が低い品種(蒸散が活発、穂が止葉の陰になる?)
 - 2) 栽培技術
 - ① 移植期の後進
 - ② 直播
 - ③ 灌漑による水温低下
2. 高温に遭遇しても品質低下しない
 - 1) 品種
 - ① 籾あたりソース能力が高い
 - ② シンク能力が高い
 - 2) 栽培技術(品種で記した①、②を栽培管理で制御)
 - ① 施肥管理
 - ② 水管理(根の健全化、落水時期の遅延)
 - ③ 適期収穫

穂肥が多いと基部未熟粒が減少する

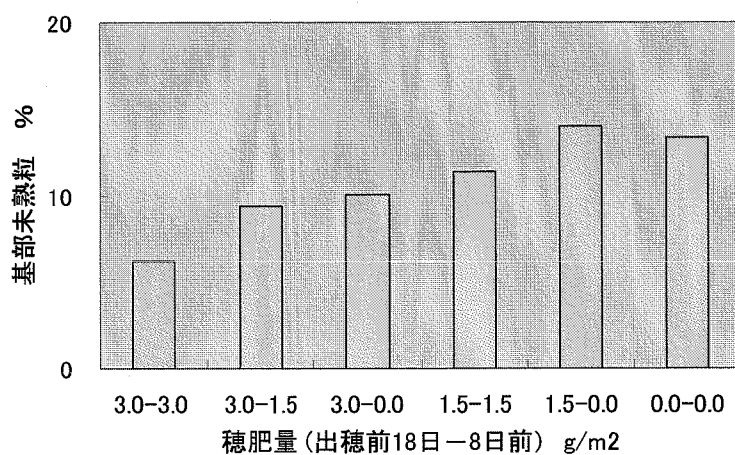


図 穂肥量の異なる各試験区における基部未熟粒歩合
(九州沖縄農研 2003年圃場試験
; 出穂後20日間平均気温は27.7°C)